

出向く宮農レポート

～学校給食出荷へ向けた玉ねぎ防除～



北部宮農センター 瀬戸地区担当
村瀬 雄飛

今回は瀬戸市で様々な野菜を育てている浅井勇美さんの圃場へ伺いました。

浅井さんは定年後から野菜作りを始め、春は玉ねぎやキャベツ、夏にはスイカなど、年間を通じて野菜を栽培しています。また、瀬戸市の学校給食へ玉ねぎとキャベツの出荷を行っています。

今回は、玉ねぎの防除についてお話ししました。

玉ねぎの病気の一つにべと病があります。べと病とは、カビの一種(糸状菌)が感染して引き起こる病気です。気温が15度くらいで雨が多いと発症し、さらに雨で葉が濡れた状態が1～2日続くと感染が多発します。べと病に感染すると、草丈が低くなり、葉が湾曲し、色が白から黄色に変色するのが特徴です。



※農業電子図書より

感染する前の予防として、アミスター20フロアブルやボルドー剤の散布や、排水を良くして過湿にならないようにすることも効果的です。

昨年はゲリラ豪雨が多かったため、べと病が管内で多発していました。水が溜まる状態が長時間続くと根が傷んで病気が発生しますので特に注意してください。

今回、浅井さんの圃場では発病は見られませんでした。発病したらできるだけ早く抜き取り、圃場の外へ持ち出して感染を防ぎましょう。

浅井さんは瀬戸グリーンセンターへのお荷も行っています。ご来店の際はぜひ一度チェックしてみてください。

玉ねぎのべと病対策

アミスター20フロアブル

雨に強く、さまざまな病害に高い効果があります。

- 希釈倍数：2,000倍
- 使用方法：散布
- アゾキシストロビンを含む農薬の総使用回数：4回以内

